



メモリアルウエスト  
マスコットキャラクター  
ジャガ助

## これが私の生きる道

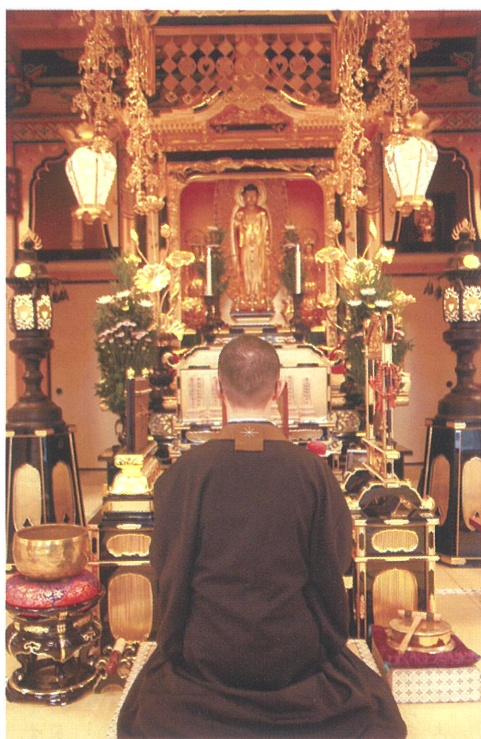
美浜町和田 済広寺  
増田 恭穂 副住職 35歳

お寺の子として生まれた副住職、現在35歳。本堂の隣で小学生から高校生を対象にした学習塾を開校。地域子ども達と向き合う日々を過ごしながら副住職の勤めをされています。どうして、塾を？と伺いましたら丁寧に質問に答えてくれました。

「物心ついた頃には、『将来は済広寺住職』として歩む道を考えていました。その一方で数学に興味を持ち大学院まで進み数学の研究に没頭。教師になる夢も芽生えました。父は住職と公務員を兼業して勤めさせて頂いていたのですが、父を見て“通勤しながらの兼業は自分には無理だ”と思い始めたのです。そんな時、檀家さんから『ウチの子の勉強をみてやってくれないか』とお声をかけて頂いたこともあり、塾ならお寺(檀家の皆様の傍)にいながら出来ると決心しました。」

済広寺では、毎年お盆に『送り盆法要』が行われています。副住職の発案で檀家の皆様に向けて新しい情報発信も始まりました。それは、お寺のホームページ。法要や様々な催し等、細やかにお知らせを更新中。「私の少し上の世代では県外で生活されている方々も多く、なかなかお参りが出来ない方もいらっしゃる。菩提寺で先祖様を供養していることが分かれば安心して下さるのではないかと考え、いつでもご覧いただけるようにしました。遠方の方々だけでなく、近くの方々にもお参りに行こうと思うきっかけになればと願っています。」

それは、副住職が塾を開校された動機に繋がります。『閑散とした寂しいお寺にならないように、檀家様とのお縁を守っていくのも住職の役目』これからのお寺の未来像をしっかりと



2018年に建て替えられた本堂にて



優しく丁寧に話しかける副住職

描き『足を運びやすいお寺』『人が集まるお寺』として、檀家の皆様と日常を過ごし共にご縁を繋ぎたい。副住職のお話からその想いが伝わりました。残念ながら、今春予定されていた入学児をお祝いする会は新型コロナウイルス感染予防の為、開催を見送られましたが、今後も檀家の皆様と共に様々なことを計画されています。

「今は、少しずつ、父から住職の仕事を教えて貰っているところ」と穏やかにおっしゃる副住職の眼差しは強く優しい。済広寺第20世を担う重責に対する覚悟を感じました。檀家様とご両親の繋がりを傍で見て、この道を選んだ増田副住職。これからは、奥様と共に受け継ぎ、檀家様に支えられ、檀家様を支え、協力し合いながらお寺を守っていかれます。『次代も済広寺に参りたい』と期待に胸が膨らみました。

### 済広寺ホームページ

<https://saikoujiwakayama.wixsite.com/jodo>

QRコード

